

(広報資料)

平成31年度 交通事業予算概要

平成31年2月12日
京都市交通局

担当: 交通局 企画総務部 財務課(863-5080)

自動車運送事業

1 予算概要

○ 経常損益は、5億円の赤字予算、前年度から16億円の悪化

- ・ 全国的なバス運転士、整備士の担い手不足の影響や軽油価格の高騰等により、経常損益は前年度予算から16億円悪化し、平成20年度以来となる赤字予算(△5億円)

○ 「市バス・地下鉄事業経営ビジョン(案)」に基づき、お客様サービスを維持しつつ、経営健全化を推進し、中長期的な安定運営に向けた予算

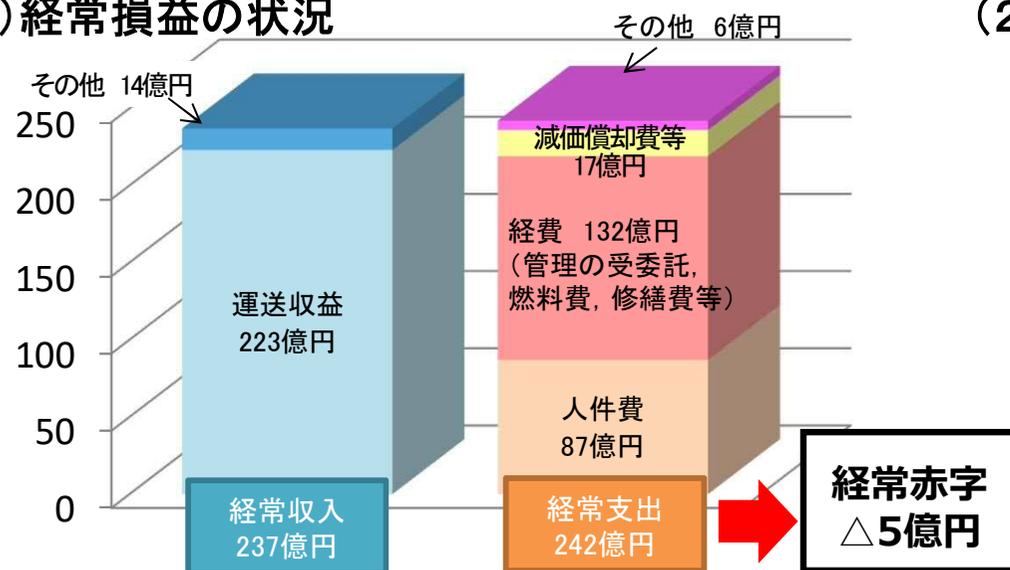
- ・ 厳しい経営状況の下、経営ビジョン(案)に掲げる「市民の暮らしとまちを支える市バス・地下鉄」の実現に向け、安全・安心を最優先に、現行の輸送力を最大限活用し、路線の維持・運行の充実、宿泊税を活用した混雑対策の推進など、お客様サービスを維持
- ・ これまで積極的に拡大してきたバス待ち環境については、厳しい財政状況の中、設備更新を中心に進めるとともに、引き続き、民間事業者の協力もいただきながら向上に努める。
- ・ 民間と行政の共汗による「チーム『電車・バスに乗るっ!』」等の取組の推進や関西国際空港等から入洛されるお客様に向けた「地下鉄・バス一日券」のPR等により、1日当たりのお客様数は前年度予算並みの36万8千人を見込む。

○ 今後も、バス運転士等の担い手不足がより深刻になるなど、厳しい経営状況が継続

地下鉄と合わせて76万7千人

- ・ 全国的なバス運転士等の担い手不足がより深刻になることが想定される中、安定的な確保が必要となるほか、今後10年間で、220億円もの更新費用等(530両の車両更新 130億円など)を要するなど、厳しい経営状況が継続

(1) 経常損益の状況



(2) 予算の主要数値

	31年度予算	30年度予算	差引増△減
在籍車両数	818両	818両	—
走行キロ数 〔1日平均〕	87.3千km	87.3千km	—
旅客数 〔1日平均〕	368千人	368千人	—
経常損益	△5億円	11億円	△16億円
利益剰余金	80億円	90億円	△10億円
年度末企業債残高	60億円	51億円	9億円

※平成31年10月以降は、消費税増税(8%→10%)を見込んでいる。

2 予算の重点

(1) 混雑対策の推進

30年度:100号系統に導入
31年度:102号系統に拡大
※以降も順次拡大

- ア 前乗り後降り方式の100号系統への導入に引き続き、102号系統に拡大し、バス車内の混雑を緩和【宿】
- イ 観光系統専用車両(洛バス)の新たな車両デザインの導入拡大及び大型手荷物に対応したバス車両の導入拡大(12両)【宿】
- ウ 金閣寺道(南行)停留所におけるバスのりばを観光系統と生活系統に分離し、お客様を分散化【試行実施】
- エ 関西国際空港等から入洛されるお客様に加え、新たに航空機内のお客様に向けた「地下鉄・バス一日券」や手ぶら観光等の利用促進のための周知・PR【宿】
- オ “おもてなしコンシェルジュ”の活動日数を拡大し、外国人観光客の多い金閣寺道停留所付近に重点配置【宿】

177日→197日に拡大

(2) 現行の輸送力を最大限活用した 路線・ダイヤの充実(31年3月実施)

- ア 堀川通の混雑対策
 - ・「二条城・金閣寺エクスプレス」の停車停留所の追加(四条堀川, 堀川今出川)及び系統番号(急行111号系統)の付与による分かりやすさの向上
- イ 夜間時間帯の運行充実
 - ・四条界わい→千本通方面(46号系統, 55号系統の増便)
 - ・北大路駅→西大路通・河原町通方面(205号系統の増便)
- ウ 停留所間の距離が長い区間への停留所の新設(3停留所)

※【宿】:宿泊税充当事業

(3) お客様サービスの向上等

- ア 全庁体制での「地下鉄・市バスお客様1日80万人推進本部」や、民間と行政の共汗による「チーム『電車・バスに乗るっ!』」における公共交通を活用した取組の推進
 - ・ICOM京都大会関連イベントなど観光・集客イベントの開催
- イ 地下鉄・市バスのネットワークを活用した増客に向けた取組の推進
 - ・関西国際空港等から入洛されるお客様に加え、新たに航空機内のお客様に向けた「地下鉄・バス一日券」や手ぶら観光等の利用促進のための周知・PR【再掲】【宿】
- ウ フルカラーLED式行先表示器の計画的な導入
- エ 東大路通の歩行空間創出に伴うバス停改修【新規】【宿】
- オ 京都駅前バスターミナルAのりばへのドライ型ミスト装置の設置【宿】
- カ 北大路バスターミナルのトイレのリニューアル【新規】【宿】

30~34年度で
全818両に導入

祇園(南行), 清水道(北行)

京都駅前全のりばの整備が完了

①設計, ②工事

(4) 安全運行の推進等

- ア 有責事故件数の削減に向けた取組の推進
 - (ア) 安全運転訓練車や外部機関を活用した車内転倒や接触等の事故防止研修を継続的に実施
 - (イ) 障害のある方や高齢の方など、全てのお客様に快適に御利用いただけるよう、交通サポートマネージャーの資格を有する運転士を計画的に養成
- イ 直営化の拡大に伴うバス運転士の前倒し採用等による担い手の確保

30~32年度の3箇年で両事業計約260人

3 財政状況（前年度予算からの増減）

（税込額）

区 分		31年度予算(A)		30年度予算(B)		差引増△減(A-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
経常損益	営 業 収 益	233	52	230	71	2	81
	う ち 運 送 収 益	223	11	220	30	2	81
	営 業 外 収 益	3	67	2	39	1	28
	収 入 計	237	19	233	10	4	09
	営 業 費 用	236	67	215	56	21	11
	う ち 人 件 費	86	85	79	13	7	72
	う ち 経費(管理の受委託・燃料費・修繕費等)	132	17	118	80	13	37
	う ち 減 価 償 却 費 等	17	65	17	63		2
	営 業 外 費 用	5	87	6	63	△	76
	支 出 計	242	54	222	19	20	35
差 引	△ 5	35	10	91	△ 16	26	
純 損 益	△ 5	35	10	91	△ 16	26	
利 益 剰 余 金	79	84	89	79	△ 9	95	
資本的収支	収 入	24	68	20	43	4	25
	う ち 企 業 債 金	22	03	19	73	2	30
	う ち 補 助 金	2	63		66	1	97
	支 出	36	66	49	09	△ 12	43
	う ち 建 設 改 良 費	24	68	20	41	4	27
	う ち 企 業 債 償 還 金	11	48	13	41	△ 1	93
	う ち 地 下 鉄 会 計 出 資 金		—	13	43	△ 13	43
う ち 一 般 会 計 納 付 金		—	1	34	△ 1	34	
差 引	△ 11	98	△ 28	66	16	68	
資 金 剰 余 額	52	46	35	47	16	99	
年 度 末 企 業 債 残 高	59	69	51	23	8	46	

※31年10月以降は、消費税増税(8%→10%)を見込んでいる。

※31年度予算には、混雑対策事業及び受入環境整備事業の財源として、宿泊税2億49百万円を見込んでいる。(30年度予算:25百万円)

※31年度予算の経常損益差引の税抜額は△7億58百万円

※市バス会計の厳しい財政状況を踏まえ、30年度予算で計上していた地下鉄会計への出資金13億43百万円を出資しなくても地下鉄会計の累積資金不足が予算より改善する見込みであることから、当該出資をしないこととしている。

高速鉄道事業

1 予算概要

○ 「市バス・地下鉄事業経営ビジョン(案)」に基づき、経営の健全化を推進する予算

- ・ 経営ビジョン(案)に掲げる「市民の暮らしとまちを支える市バス・地下鉄」の実現に向け、安全対策やお客様サービスの向上に努めながら、更なる増客を図ることを柱に経営健全化を推進し、将来にわたって「市民の足」としての役割を果たす予算として編成
- ・ 民間と行政の共汗による「チーム『電車・バスに乗るっ』」等の取組の推進や関西国際空港等から入洛されるお客様に向けた「地下鉄・バス一日券」のPRなど市バスから地下鉄への利用促進の取組により、1日当たりのお客様数は39万9千人(前年度予算比6千人増)を見込む(市バスと合わせて76万7千人)。

○ 経常損益15億円の黒字を計上するものの、依然全国一厳しい経営状況

- ・ 増収増客の取組や支払利息の減等により、経常損益15億円の黒字を計上(一般会計繰入金19億円を含む)
- ・ 企業債等残高は3,468億円、累積資金不足は317億円となり、有利子負債残高は3,785億円の見込み

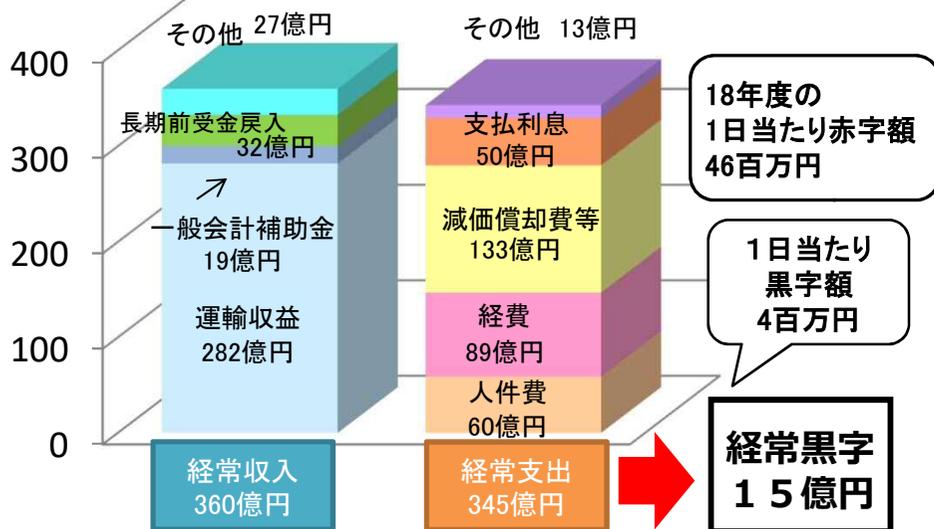
○ 今後も引き続き厳しい経営状況

- ・ 多額の企業債等残高に加え、今後、累積資金不足は増加していく見込み
- ・ 烏丸線の新型車両や両線の設備更新等に多額の費用を要し、引き続き、厳しい経営状況

経営ビジョン(案)の財政目標
「有利子負債残高の着実な削減」

経営健全化計画(H21~30)総額424億円→経営ビジョン(案)(H31~40)総額740億円

(1) 経常損益の状況



(2) 予算の主要数値

	31年度予算	30年度予算	差引増△減
在籍車両数	222両 [37編成]	222両 [37編成]	—
走行キロ数 [1日平均]	58.0千km	58.0千km	—
旅客数 [1日平均]	399千人	393千人	6千人
経常損益	15億円	7億円	8億円
有利子負債	3,785億円	3,870億円	△85億円
累積資金不足	317億円	317億円	—
年度末企業債等残	3,468億円	3,553億円	△85億円

※平成31年10月以降は、消費税増税(8%→10%)を見込んでいる。

2 予算の重点

(1) 増収増客の取組

ア 全庁体制での「地下鉄・市バスお客様1日80万人推進本部」や民間と行政の共汗による「チーム『電車・バスに乗るっ!』」における公共交通を活用した取組の推進

- ・ ICOM京都大会関連イベントなど観光・集客イベントの開催

イ 地下鉄・市バスのネットワークを生かした増客

- ・ 航空機内や関西国際空港等から入洛されるお客様に向けたPRをはじめとする「地下鉄・バス一日券」の販売促進による市バスから地下鉄への利用促進【宿】

ウ コトチカ店舗の更なる集客に向けた取組など駅ナカビジネスによる増収や大学・企業と連携した駅ナカアートプロジェクトなどによる駅の魅力向上

エ 地下鉄・市バス応援キャラクターなどのポスターやアニメ映像を活用した京都市営地下鉄のPR

(2) 安全対策等の推進

ア 安全対策

(ア) 烏丸線全駅への可動式ホーム柵設置を目指した、自動列車運転装置(ATO)搭載の新型車両の実施設計に着手【新規】

(イ) 烏丸線ホーム車掌用モニター設備の増設

33年度までに全駅設置
(31年度:五条駅, 九条駅, 十条駅, くいな橋駅, 竹田駅の5駅10箇所)

(ウ) 駅出入口への止水板の設置による浸水対策の強化

28~31年度で12駅31箇所に設置
(31年度:丸太町駅, 五条駅, 六地藏駅)

※【宿】:宿泊税充当事業

(エ) 障害のある方や高齢の方など全てのお客様に快適に御利用いただけるよう交通サポートマネージャーの資格を有する駅係員を養成

30~32年度の3箇年で両事業計約260人

イ 環境への配慮

- ・ 地下鉄車両車内灯及び駅舎等照明のLED化の推進

(3) お客様サービスの向上

ア 開業当初から使用している烏丸線車両9編成が更新の時期を迎えるため、より便利で快適に御利用いただけることを目指した新型車両の実施設計に着手【再掲】

イ 分かりやすい情報発信

(ア) 車内案内表示装置等の4箇国語対応の推進【宿】

29~32年度で烏丸線11編成, 東西線17編成に搭載予定
(31年度は烏丸線3編成, 東西線4編成に搭載)

(イ) 災害時等の運行情報提供に係る駅構内掲示物の4箇国語対応化【新規】

(ウ) 東京オリンピック・パラリンピックへ向け外国人観光客にも分かりやすい案内用図記号へ更新【宿】

ウ トイレのリニューアル(九条駅, くいな橋駅)

31年度
供用開始予定

32年度までに全駅の段差解消等のバリアフリー化を完了予定

エ お客様の多い駅の夜間集中清掃をはじめとした駅構内の美化推進【新規】

京都駅, 四条駅, 烏丸御池駅

3 財政状況（前年度予算からの増減）

（税込額）

区 分		31年度予算(A)		30年度予算(B)		差引増△減(A-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
経常損益	営 業 収 益	308	30	301	99	6	31
	うち運輸 収 益	281	74	275	70	6	04
	営 業 外 収 益	51	54	50	84		70
	うち一般 会計 繰 入 金	19	38	18	23	1	15
	うち長期 前受 金 戻 入	31	82	32	25	△	43
	収入計	359	84	352	83	7	01
	営 業 費 用	282	18	276	69	5	49
	うち人件 費	60	54	57	31	3	23
	うち経費（動力費・修繕費等）	88	91	89	38	△	47
	うち減価償却 費 等	132	73	130	00	2	73
営 業 外 費 用	62	91	69	27	△	6 36	
支出計	345	09	345	96	△	87	
差 引	14	75	6	87	7	88	
現 金 収 支	111	71	101	76	9	95	
純 損 益	14	75	6	87	7	88	
△ 累 積 欠 損 金	△3,050	58	△3,081	10	30	52	
資本的収支	収 入	331	39	356	52	△	25 13
	うち企業 債	294	16	309	24	△	15 08
	うち補助 金	8	50	5	61	2	89
	うち出資 金	28	52	40	43	△	11 91
	(市バス会計出資金)		-	13	43	△	13 43
	支 出	455	59	483	27	△	27 68
	うち建設改良費（割賦購入費除く）	83	91	79	08	4	83
うち企業債等 償 還 金	332	43	365	14	△	32 71	
差 引	△	124 20	△	126 75	2	55	
有 利 子 負 債 総 額 (a + b)	3,784	65	3,870	53	△	85 88	
累 積 資 金 不 足 a	317	05	317	44	△	39	
年 度 末 企 業 債 等 残 高 b	3,467	60	3,553	09	△	85 49	

※31年10月以降は、消費税増税(8%→10%)を見込んでいる。

※31年度予算には、混雑対策事業及び受入環境整備事業の財源として、宿泊税81百万円を見込んでいる。(30年度予算3百万円)

※31年度予算の経常損益差引の税抜額は7億95百万円

※30年度予算で計上していた市バス会計からの出資金13億43百万円を受け入れなくても累積資金不足が予算より改善する見込みであることから、市バス会計の厳しい財政状況を踏まえ、当該出資金を受け入れないこととしている。